

官報

號外 昭和十六年二月一日

○第七十六回 帝國議會 貴族院議事速記第七號

昭和十六年一月三十一日(金曜日)午前十時
十二分開議

議事日程 第七號

昭和十六年一月三十一日

午前十時開議

第一 借地法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 借家法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三 商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第四 民法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第五 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 戶籍法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセマス

(白木書記官朗讀) 昨三十日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

臨時軍事費豫算追加案(臨第一號) 同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

兵役法中改正法律案 陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案 海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案

官報號外 昭和十六年二月一日 貴族院議事速記第七號

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

民法中改正法律案可決報告書

非訟事件手續法中改正法律案可決報告書

戶籍法中改正法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十六回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

陸軍省所管事務政府委員

陸軍省法務局長 大山 文雄君

海軍省所管事務政府委員

海軍省法務局長 潮見 茂樹君

○議長(伯爵松平賴壽君) 昨三十日永瀨寅吉君、貴族院令第一條第六號ニ依リ貴族院議員ニ任ゼラレマシタ、仍テ其ノ部屬ヲ第九部ニ定メマシタ

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、請暇ノ件ニ付御諮ヲ致シマス、多木久米次郎君、病氣ニ付十日間請暇ノ申出ガゴザイマシタ、許可ヲ致シテ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第一、借地法中改正法律案、日程第二、借家法中改正法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザ

イマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、柳川司法大臣

(左ノ案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ)

借地法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十六年一月二十八日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿

司法 大臣 柳川 平助

借地法中改正法律案

借地法中左ノ通改正ス

第四條 借地權消滅ノ場合ニ於テ借地權者カ契約ノ更新ヲ請求シタルトキハ建物アル場合ニ限り前契約ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ借地權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ土地所有者カ自ラ土地ヲ使用スルコトヲ必要トスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テ遲滞ナク異議ヲ述ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

借地權者ハ契約ノ更新ナキ場合ニ於テハ時價ヲ以テ建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第五條 第一項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ建物アルトキハ土地所有者ハ第四條第一項但書ニ規定スル事由アルニ非サレハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ設定シタル借地權ニ付亦之ヲ適用ス

借家法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十六年一月二十八日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿

司法 大臣 柳川 平助

借家法中改正法律案

借家法中左ノ通改正ス

第一條 二 建物ノ賃貸人ハ自ラ使用スルコトヲ必要トスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ニ非サレハ賃貸借ノ更新ヲ拒ミ又ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

第二條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタル場合ニ於テ當事者カ期間満了前六月乃至一年内ニ相手方ニ對シ更新拒絶ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非サレハ更新セサル旨ノ通知ヲ爲ササルトキハ期間満了ノ際前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ通知ヲ爲シタル場合ト雖モ期間満了ノ後賃借人カ建物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキ亦前項ニ同シ

第三條 第二項ヲ削リ同條中「前條」ヲ「前條第二項」ニ改ム

第三條 二 一年未滿ノ期間ノ定アル賃貸借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス

第四條 第一項中「解約申入」ノ上ニ「賃貸借ノ期間満了又ハ」ヲ加フ

第六條 中「前五條」ヲ「前七條」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ爲シタル建物ノ賃貸借ニ付亦之ヲ適用ス

第一條 二ノ改正規定ハ本法施行前ニ解約ノ申入アリタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但シ本法施行前既ニ借家法第三條第一項

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

ノ期間ヲ經過シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 本法施行ノ際現ニ存スル建物ノ賃貸借ニシテ本法施行後一年內ニ其ノ期間満了スベキモノニ付當事者ガ其ノ期間満了前一年內ニ相手方ニ對シテ爲シタル更新拒絕ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ハ第二條第一項ノ期間內ニ爲サザルモノト雖モ之ヲ同條同項ノ期間內ニ爲シタルモノト看做ス
 前項ノ場合ニ於テ賃貸借ガ期間ノ滿了ニ因リ終了シタルトキハ第四條ノ改正規定ニ拘ラズ賃貸借モ亦終了ス

(國務大臣柳川平助君演壇ニ登ル)

○國務大臣(柳川平助君) 借地法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近來建物及土地價格ガ漸次昂騰致シマシテ、又借地ヲ求ムル者ガ次第ニ増加致シマシタ爲ニ、借地權ノ期間ガ滿了致シマス、土地所有者ハ其ノ土地ヲ他ニ利用スル必要上、借地契約ノ更新ヲ肯ジナイト云フ事態ヲ生ズルニ至リマシタ、勿論契約ノ更新ヲ拒絕スレバ、借地權者ハ建物ノ買取ヲ求ムルコトガ出來マスガ、其ノ買取代金ハ時價ト云フコトニナッテ居リ、此ノ時價ハ、建物其ノモノノ時價デ、所謂借地權ノ價格ハ之ヲ包含シテ居ナイノデアリマス、一般ノ建物價格ニ比シ低イノデアリマス、從ツテ土地所有者ハ、建物ヲ買取ツテモ尙土地ノ明渡シヲ求ムルヲ利得トスル譯デアリ、借地權者ハ必ズシモ救済セラレナイノデアリマス、而シテ建物ノ所有者ガ、建物ヲ他ニ移轉スルコトヲ強制セラレルコトハ、ソレガ自己ノ住宅ニシテモ將又貸家ニシテモ、到底忍ビ難キコトデアリマス、土地所有者ガ更新ヲ拒絕スルト云フ弊害ハ、事變以來相當目立ツテ參リマシタ、併シ土地所有者ハ、契約ノ更新ヲ拒絕シテ

モ、又再び何人カニ借地權ヲ設定スルヲ常トスル譯デアリマスカラ、更新ヲ拒絕スル理由ハ頗ル薄弱ナルモノト言ハネバナリマセヌ、此ノ點ヲ圓滿ニ解決スル爲、借地法ヲ改正シ、契約期間満了スルモノモ建物ガ存スル限り契約ハ當然更新スルモノト致シ、土地所有者ガ自ら使用スル必要ガアル場合、其ノ他正當ノ事由アル場合ニ、土地所有者ガ異議ヲ述べレバ例外トシテ更新シナイ、ソシテ更新シナイ場合ニハ、建物ノ買取請求權ヲ認メルト云フ風ニ改メトスルノデアリマス、本改正案ハ何處迄モ債務ノ不履行ナキニ拘ラズ、唯單ニ期間満了シタガ爲ニ土地ノ明渡シヲ求メラレル場合ヲ調整シ、無用ナル爭ヲ避ケシメトスルニ在ルノデアリマシテ、此ノ改正案ガ公布セラレタル曉ニハ、借地關係ノ圓滿ナル處理ニ貢獻スル所ガ尠クナイト信ズル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上、本案ノ通過ニ御協力アラムコトヲ希望致シマス、次ニ借地法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近來建物ノ價格ガ昂騰シ、借家ガ拂底ヲ告グルニ至リマシテ、賃貸人ノ中ニハ、或ハ期間満了ヲ奇貨トシ或ハ解約ノ權利ヲ不當ニ行使シ、何等ノ債務不履行モノナキ賃借人ヲ追立テ、空家トシテ之ヲ他人ニ賃貸シ、自ら不當ノ利益ヲ受クル爲ニハ、賃貸人ニ迷惑ヲ及スモ毫モ顧ミナイト云フ弊風ガ生ジテ參リマシタ、之ガ爲例ヘバ、權利金ヲ支拂ツテ他人ノ店舗ヲ借入レ、多クノ資本ヲ投ジテ營業ヲ開始シ、畢生ノ努力ヲ傾倒シテ地盤ヲ開拓シタルニ拘ラズ、而モ賃料ノ滞納其ノ他ノ債務不履行ナキニ拘ラズ、家屋ノ明渡シヲ強制セラレ、多年ノ努力ヲ一朝ニシテ水泡ニ歸セシメタト云フヤウナ事例モアリ、雷ニ賃借人ニ酷ナルノミデナク、國家經濟ノ申スモ甚ダ憂慮スベキ次第デアリマス、斯クノ如キ不合理ハ事變以來一層其ノ度ヲ加ヘテ參リ、資料

ノ不足ト殷賑産業ノ勃興ニ原因シ住宅ノ拂底其ノ極ニ達シ、建物價格ハ甚ダシク昂騰シテ參リマシタ爲、賃貸人ハ、或ハ期間満了ノ場合契約ノ更新ヲ爲サズ、或ハ解約ノ申入ヲ爲シテ、賃借人ヲ追立テ、建物ヲ他ニ賣却セムコトヲ企テ、其ノ弊害ハ到底默視スルヲ得ナイモノガアリマス、此ノ弊害ハ從來ハ裁判所ニ於キマシテ調停等ニ依リ之ヲ防止シテ來タノデアリマスガ、最早調停ノミニ依リテハ到底解決スルコトガ出來ナイヤウナ狀況ト相成リマシタノデ、今回借家法ヲ改正シマシテ其ノ弊害ヲ防止シタイト存ズルノデアリマス、即チ建物ノ賃貸人ハ、自ら使用スルコトヲ必要トスル場合、其ノ他正當ノ事由アル場合デナケレバ、賃貸借ノ更新ヲ拒ミ又ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得ナイモノトシ、何等債務不履行ナキ善良ナル賃借人ヲ保護スルコトヲ致シ、又解約ノ申入ニハ六箇月間ノ猶豫期間ガアリ、六箇月以前ニ解約ノ通知ガ行ク譯デアリマスカラ、是ト一致セシムル趣旨ヲ以テ、當事者ガ期間ヲ定メタ賃貸借ニ於テ期間満了ノ場合ノ更新拒絕ニ付テモ、賃貸人ヨリ、一定ノ期間內ニ通知ヲ爲サシムルコトトシタノデアリマス是ガ本改正案ノ主要點デアリマシテ、此ノ外ニ之ニ關聯シテ二三ノ條文ヲ整理シ、且必要ナル經過規定ヲ設ケタノデアリマス、本改正案ハ、何處迄モ賃借人ガ何等ノ理由モナク不當ニ追立テラレル不合理ヲ調整セムトスルニ在ルノデアリマシテ、此ノ法案ガ公布セラレタ曉ニハ、借家關係ノ圓滿ナル解決ニ資スル所ガ尠クナイト信ズル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上、本案ノ通過ニ御協力アラムコトヲ希望スル次第デアリマス

○子爵秋田重季君 賛成
 ○議長(伯爵松平賴壽君) 戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
 (異議ナシト呼フ者アリ)
 ○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
 (近藤書記官朗讀)
 借地法中改正法律案外一件特別委員
 伯爵岩倉 具榮君 侯爵黒田 長禮君
 伯爵徳川 宗敬君 關屋貞三郎君
 子爵秋月 種英君 子爵富小路隆直君
 子爵植村 家治君 柴田善三郎君
 男爵肝付 兼英君 男爵渡邊 修二君
 男爵村田 保定君 長岡隆一郎君
 安宅 彌吉君 佐々木八十八君
 上野松次郎君
 ○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第三、商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、小林商工大臣
 商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案
 右
 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
 昭和十六年一月二十八日
 内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
 商工大臣 小林 一三
 商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案
 自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者、礦業權者又ハ取引所ハ其ノ者ニ付營業稅又ハ取引所特別稅ノ一年間ノ納稅額ノ決定セラレタルコトナキ場合ニ於テハ商工會議所ノ地區內ニ於テ營業收益稅、礦產稅又ハ取引所營業稅ヲ一年間ニ命令ノ定ムル額以上納ムルトキハ之ヲ商工會議所法第十四條第一項第三號ノ條件ヲ具フルモノト看做ス
 商工會議所法第十四條第一項第三號但書

及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

國務大臣小林一三君演壇ニ登ル

國務大臣(小林一三君) 商工會議所法第十四條ノ議員ノ選舉資格中、納税ニ關スル條件ニ付キマシテハ、先般ノ税法改正ニ伴ヒマシテ昭和十六年四月一日以降ニ於テハ、營業稅又ハ取引所特別稅ヲ命令ノ定ムル額以上納ムルコトト改正セラレタノデアリマシガ、現在ノ所法人營業稅等ノ稅額ノ決定シナイモノガ多數ゴザイマス爲、議員選舉權者デアツテ選舉權ヲ喪失スルニ至ルト思ハレルモノガ、尙クナイト思フノアリマス、從ツテ又商工會議所ノ豫算ノ編成モ困難デアリヤウナ狀況デゴザイマスノデ、經過ノ措置ト致シマシテ、營業稅等ノ決定シナイ者ニ付テハ尙舊稅ニ依ツテ選舉權ノ有無ヲ定メルノヲ至當ト認メマシテ、茲ニ商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律ヲ制定致シタイト思フ次第デゴザイマス、何卒十分ニ御審議ノ上、御協贊ヲ與ハラレムコトヲ御願ヒ致シマス

議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑ガナケレバ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑ガナケレバ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

高山書記官朗讀

商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案特別委員

- 公野山縣 有道君 子爵米津 政賢君
子爵酒井 忠英君 犬塚勝太郎君
中川 健藏君 男爵松岡 均平君
佐堂 卓雄君 三浦 新七君
中山 太一君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第四、民法中改正法律案、日程第五、非訟事件手續法

中改正法律案、日程第六、戶籍法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、副委員長加藤子爵

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ〕

民法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年一月三十日

副委員長 子爵加藤 泰通

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

非訟事件手續法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年一月三十日

副委員長 子爵加藤 泰通

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

戶籍法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年一月三十日

副委員長 子爵加藤 泰通

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

子爵加藤泰通君演壇ニ登ル

○子爵加藤泰通君 只今上程セラレマシタ民法中改正法律案外二件ノ、特別委員會ノ經過ノ大要並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、議題ト相成リマシタ三法案ノ趣旨並ニ提案ノ理由ニ付キマシテハ、過日本議場ニ於キマシテ司法大臣ヨリ詳細ニ御説明ガアリマシタカラ、私ハ之ヲ省略致シマス、委員會ハ去ル一月二十八日正副委員長ノ互選ヲ行ヒマシタ、續イテ二十九、三十ノ兩日會議ヲ

開キマシタ、三案ヲ一括致シマシテ議題ト致シ、政府當局ヨリ案ノ内容ニ付キマシテ詳細ナル説明ヲ聽取致シ、次イデ質疑ニ入リマシタ、委員諸君ハ色々ノ角度ヨリ熱心ナル檢討ヲ行ハレマシタト共ニ、政府委員諸君ヨリモ懇切丁寧ナル應答ヲ得マシタ、今質問ノ主ナルモノニ二三ヲ御紹介致シタイト思ヒマス、民法中改正法律案ニ關シマシテ、或委員ヨリ、臨時法制會議決定ニ係ル親族編改正要綱第八ノ二ニ依レバ、民法第七百四十九條第三項ハ之ヲ削除スルトトナツテ居ル、然ルニ本案ニ於テハ之ヲ削除セズ提案シタ理由ハ如何、之ニ對シマシテ政府ノ御答辯ハ、改正要綱ニ於キマシテハ民法第七百四十九條第三項ヲ削除シ、此ノ戶主ノ離籍權ヲ廢止スベキモノト致シテ居リマスケレドモ、改正調査委員會ニ於テ研究ノ結果、全然之ヲ廢止スルコトヲ取止メマシテ、本案ノ如キ趣旨ニ改メ、此ノ離籍權ノ濫用ノ防止ヲ圖ルコトニ致シタ次第デアリ、斯様ニ御答辯ガアリマシタ、又或委員カラハ、本案ニ於テハ、戶主ガ家族ニ對シ居所ヲ指定シタルニ拘ラズ、家族ガ正當ノ理由ナクシテ之ニ應ゼザルトキハ、戶主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ離籍スルヲ得ルコトニナシテ居ルケレドモ、寧ロ之ヲ戶主ハ正當ノ理由ナクシテ家族ニ居所ヲ轉ズル旨ヲ催告スルコトヲ得ザルモノトシタ方ガ宜イデハナイカト云フ御意見ニ對シマシテ、政府ハ、本案(現行法)ノ規定ヲ甚ダシク變更スルコトヲ避ケタルモノデアリマシテ、之ニ依ルモ、裁判所ノ各具體の場合ニ應ズル適切ナル運用ニ依リマシテ、十分ニ不當ナル離籍ヲ防止スルコトガ出來ル、斯ウ云フ答辯デゴザイマシタ、次ニ非訟事件手續法中改正法律案ニ關シマシテ、一委員ヨリ、本案ニ依レバ、離籍ノ許可ハ戶主ノ住所ノ區裁判所之ヲ管轄スルモノトシ、離籍セラレムトスル家族ヲ審訊スベキモノト爲シテ居ル

ガ、其ノ家族ガ遠方ニ居住ラシテ居タ場合ニハ、共助法ニ依ル囑託ノ方法ニ依リ審訊スルカト云フ御質問デアリマシタガ、政府ハ、全ク其ノ通りデアルト云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ次ニ戶籍法中改正法律案、之ニ付キマシテ、戶籍法ノ改正ニ付キマシテハ、從來ノ戶籍簿本及抄本、ソレト此ノ改正案ニ依リマスル簿本トノ關係等ニ付キマシテ、幾多ノ質疑ガゴザイマシタガ、是等ハ長クナリマスルカラ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、斯様ニ致シマシテ質疑ヲ終リ、續イテ討論ニ入りマシタ、一委員カラハ、此ノ法案ハ必ズシモ全然意見ナク同意ヲスルト云フモノデハナイガ、此ノ時節柄非常ニ必要ナ法案デモアルシ、更ニ之ヲ修正スルコトナドヲ止メテ原案ヲ贊成スルト云フ贊成ノ演說ガアリマシタ、又一委員カラモ同様本案ニ贊成スルト云フ御意見ガアリマシタ、採決ノ結果、滿場異議ナク三案トモ原案通り可決致サレマシタ、○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ、三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通

リテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部、第二讀會ノ決議通りテ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 過日ノ田中館君ノ質疑ニ對シ、政府委員ヨリ答辯セラル、旨ノ要求ガゴザイマシタ、此ノ際之ヲ御許シ致シマス、松尾文部省圖書局長

〔政府委員松尾長造君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松尾長造君) 先日田中館博士ヨリ國語國字問題ニ付キマシテ御質疑ガゴザイマシタノデ、此ノ際御答ヲ申上ゲマス、國語國字ノ整理統一ハ、國民精神ノ統一振作上、又教育ノ能率増進上、極メテ重要ナル問題デアルト考ヘテ居リマス、從ツテ現下ノ錯雜混亂セル國語國字ヲ調査研究致シマシテ、之ヲ整理統一一致シマスルコトハ、焦眉ノ急務デアルト信ジテ居ルノデゴザイマス、併シ國語國字問題ノ解決ハ、學術的研究調査ノ基礎ノ上ニ立チマスルト共ニ、實際ニ即セシムル要ガアルノデアリマス、且國語ノ歴史の傳緯竝ニ將來ヘノ發展性ヲ併セ考慮致シマシテ、慎重ニ行フコトガ肝要デアルト存ジマス、從ツテ文部省ニ於キマシテハ、先

般國語會議ヲ擴充致シマスルト共ニ、國語課ト云フモノヲ新設致シマシテ、兩者協力ノ上調査研究ヲ促進致シマシテ、成案ヲ得次第之ヲ實行ニ移スベク期シツ、アル次第ゴザイマス、尙國語ノ表記ニ付キマシテハ、是ハ古來ノ歴史傳統カラ考ヘ、又文字使用ノ現狀カラ申シマシテモ、今俄カニ音素文字ニ改ムルト云フコトハ、是ハ適當ト考ヘテ居リマセヌ、即チ國語ノ表記ハ、先ヅ音節文字ニ依ルヲ適當ト考ヘテ居ル次第ゴザイマス、次ニ「ローマ」字ヲ國民學校ニ於テ教ヘルコトニ付キマシテハ、是ハ高等科卒業迄ニハ適當ニ之ヲ教授シ得マヌヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、最後ニ國語ノ「ローマ」字綴リ方ニ關スル内閣訓令ノ趣旨デゴザイマスルガ、是ハ官廳ニ於キマシテハ徹底シテ居ルモノト考ヘテ居リマスルケレドモ、尙今後共之ガ趣旨ノ徹底方ニ付キマシテハ十分努力ヲ致シマス、右御答ヘ申上ゲマス

〔田中館愛橋君演壇ニ登ル〕

○田中館愛橋君 御挨拶ヲ申上ゲマス、昨今極メテ御忙ガシイ所、詳シク御答辯下サレマシテ感謝致シマス、國語ノ調査ニ付キマシテハ、全ク政府ノ御覽ニナル所ト御同感デゴザイマス、唯此ノ調査ノ完備スル迄御待チニナツテ實行ヲ爲サルヨリハ、出來上ツタ所カラ部分的ナリトモ實行爲サレムコトヲ希望致シマス、先達テ申シ殘シマシタガ、教育年限ノ長引キマスコトハ、男女共ニ結婚ノ時期ヲ長メルコトニ相成リマス、是ハ只今厚生省ニ於テ問題トナツテ居リマス人口増殖ニモ影響スル所少カラヌコトト存ズルノデアリマス、ドウカ此ノコトモ、御盡力ノ上ニモ更ニ御盡力ヲ御願ヒ致ス次第デアリマス、次ニ、音素文字ハ今俄カニ採用スルコトハムツカシイ、是モ全ク御同感デゴザイマシテ、實ハ先達テ翼贊會ヨリ社團法人「ローマ」字會ニ對シテ、其ノ目的、

來歴、希望等ヲ問合ガゴザイマシタ、此ノ回答ハ各控室ニ御廻シシテゴザイマス、其ノ二十一頁ノ所ニ申シテ居リマス如ク、私共ハ必ズシモ漢字、假名ノ缺點ノミヲ擧ゲテ、ソレ等ノ長所ト永續價値ヲ認メズ、即時ニ是等ヲ廢棄セヨナドト云フ暴論ヲ弄ブ者デハゴザイマセヌ、洋服ガ段々ト行ハレマシテ今日遂ニ國民服ノ制定ト迄立チ到ツタ如ク、音素文字モ追々ニ國字ノ一部分トシテ認メラレ、之ニ依ツテ教育ノ效率ヲ昂メ、又文化ノ向上ニモ役立テルヤウニ致シタイト希望シテ居ル者デゴザイマス、之ニ付キマシテモ訓令式ノ徹底ト是ガ學校ニ於テ教ヘラレルコトハ、先ヅ第一ノ手始メト存ジテ居ル者デアリマス、此ノコトニ付キマシテモ、政府ノ御考ヘヲ伺ヒマシテ安心致シマシタ、尙又ソレニ付キマシテ、文部省ハ關係各官廳トモ御話合ヒノアリマシタコトモ伺ヒマシテ、御手数ノ段重ネテ御禮ヲ申上ゲマス、是ニテ私ノ質疑ハ終了致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 次會ノ議事日程ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十時四十五分散會

貴族院議事速記第四號正誤
二三頁四段一六行ハ全文各一字宛下ルベキノ誤ニ付訂正ス